

第 1 4 回 地域参画推進連絡協議会 議事録

1. 日 時 2017年6月27日(火) 13:00～15:00

2. 場 所 久留米シティプラザ 4階 中会議室2・3

3. 出席者 学外

久留米市長	檜原 利則
久留米商工会議所会頭	本村 康人(欠席)
久留米市副市長	橋本 政孝
久留米市教育長	大津 秀明
総合政策部長	國武 三歳
協働推進部長	井上 謙介
市民文化部長	野田 秀樹
健康福祉部長	鷗木 賢
子ども未来部長	吉田 茂
環境部長	今田 利満
農政部長	山口 文刀
商工観光労働部長	松野 誠彦
都市建設部長	志賀 浩二
教育部長	窪田 俊哉
久留米商工会議所専務理事	穴見 英三(欠席)

学内

理事長	横田 君代
学長	関 聡
幼児教育学科長・地域参画推進センター長	椎山 克己
フードデザイン学科長・教務部長	山下 浩子
宗教部長	阿久根 政子
学生部長	原 浩美
就職部長	山村 涼子
入試広報部長	江越 和夫
図書館長	檜山 フミエ
法人事務局長	井上 健一
短期大学事務長	高柳 恭子

1. 開会

短期大学事務長 高柳 恭子

こんにちは、お時間よりちょっと早いようですが、皆さんお集まり頂いておりますので、早速始めさせて頂きたいと思います。本日はお忙しい中、ありがとうございます。これより平成29年度久留米信愛女学院短期大学地域参画推進連絡協議会を開催いたします。私は、本日協議会の事務局を担当しております短期大学事務長の高柳でございます。どうぞよろしくお願い致します。

議事に入ります前に資料のご確認をお願いいたします。本日は、事前にお渡ししておりました資料と机上にご用意いたしました資料を中心に議事を進めてまいりたいと思います。資料の方で足りないものがありましたら、お願い致します。いかがでしょうか。座席上には入試パンフレットを始めとする資料一式を準備致しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日ご出席の皆様方のご紹介は、お手元の座席表をご覧いただきたく存じあげます。委員の皆様のご紹介もでございますが時間の都合上、ご紹介は割愛させていただきます。

それでは会議に先立ちまして、本協議会会長であります久留米信愛女学院短期大学 関 聡学長がご挨拶申し上げます。

2. 学長挨拶

学長 関 聡

皆様、こんにちは。本日は、ご多忙にも関わらず、檜原市長様をはじめ重責を担う皆様方のご出席をいただき心からお礼申し上げます。また、日頃から久留米信愛女学院短期大学地域参画推進連絡協議会に温かいご支援をいただき重ねてお礼申し上げます。

平成29年、本学は短期大学設置50年という節目を迎えました。この50周年を、教職員一同心を一つにして「自己を他者に生かす」教育理念のもと、教育活動や地域参画活動に取り組んで参ります。また、学院全体でも「信愛ひらくプロジェクト」と名付けた改革に取り組み、その一環として、来年の平成30年度から中学と短期大学は男女共学となります。18歳の女子を対象とした短期大学から、男女の区別なく、また、年齢や経験等も、あるいは障害の有無等に関わりなく、地域に開かれたコミュニティーカレッジとして新しい信愛を作ろうと考えております。男性保育士や男性栄養士の養成にも積極的に取り組んで参りますので、どうかご支援をお願いいたします。平成30年度から法人名は「学校法人 久留米信愛女学院」から「学校法人 久留米信愛学院」へ、学校名は「久留米信愛女学院短期大学」から「久留米信愛短期大学」へと名称変更いたします。

本学が、地域参画活動に本格的に取り組むようになりましてから、今回の協議会で14回目の開催となります。これまでの会議におきましても、委員の皆様方から、毎回慎重なご審議並びに本学へのご期待やご意見を頂き、改めてお礼申しあげますと共に、今後も変わらぬご支援をお願い申し上げまして、ご挨拶と代えさせていただきます。

短期大学事務長 高柳 恭子

関学長ありがとうございました。引き続き久留米市長 檜原 利則 様からご挨拶を頂戴したく存じあげます。

3. 久留米市長挨拶

久留米市長 檜原 利則

皆さまこんにちは。久留米市長の檜原でございます。日ごろから、横田理事長、関学長はじめ、久留米信愛女学院短期大学の皆様方には、久留米市のまちづくり、久留米市の発展のために多大なるご支援を賜っておりまして、この場をお借りしまして厚く感謝申し上げます。平成16年から開催されておりますこの協議会でございますが、ただいま関学長のお話の中にありましたように、今年で14回目を迎えております。この長い歴史の中で、久留米信愛女学院短期大学と地域が連携した地域貢献の取り組みは、様々な意味で地域に浸透していると、このように感じているところでございます。また、平成18年に締結を致しました事業協力協定ですが、これにつきましても毎年様々な取り組みを進めて頂いている訳でございまして、昨年度は信愛つどいの広場事業をはじめとした、子育て相談の実施、信愛クリスマスショップ「メルシィ」の運営や、学生ボランティアの皆さまの活動など、地域の活性化に繋がる様々な取り組みを行って頂いております。学生の皆様方を含め、重ねて感謝を申し上げたいと思います。この様にまちづくりに大学や学生の皆さま方にご参加頂きますことは、まちの活性化に大きく繋がるものでございまして、今後もこの様な連携した取り組みを是非お願いしたい、その様に考えておるところでございます。

現在、私ども久留米市では人口減少問題に対応するために、様々な機関や団体の方々と連携を、そして協力をしながら、久留米市の安定した雇用の創出や、人の流れの創出、そして子育て支援の充実など、「キラリ創生総合戦略」という久留米市の地方創生の取り組みを策定しまして、それを進めているところでございます。久留米市の人口の状況は平成25年度から、社会動態の増加によりまして、少しずつではありますが増加傾向にあります。しかしながらやはり亡くなる方の数が非常に増えまして、最近では厳しい状況も見えている様な状況でございます。今後とも、少しでも長く人口を維持していくことが大変重要でございますので、そのためには地方創生の取り組みを確実に進めまして、若い世代の皆様の地元への定着などの施策を進めていきたいと考えているところでございます。地方創生の実現にあたりましては、高等教育機関の皆様方をお願いする役割というものが大変大きいものがある訳でございまして、特に地域の時代を担うリーダーや専門的な人材育成が求められている、そのように考えております。そういったなかで、久留米信愛女学院短期大学におかれましては、子育て支援に関わります、重要な担い手であります保育士の人材育成、そして生きる上で必要な食に関する専門的な人材を養成して頂いている訳でありまして、つきましては、このような学生の皆さんに是非地元で定着して頂きたいと、そう強く思っているところでございます。また、地方創生の取り組みにつきましては、情報発信も大変重要でございますので、今年の7月22日には東京の新橋に、久留米市を中心とした、連携中枢都市圏四市二町の地域のエリアでございますが、共同でアンテナショップを出店することに致しております。これは、この圏域の特産品の販路拡大、そして圏域への移住定住を促進しよう、並びに圏域の魅力・情報発信することを大きな目的としているところでございまして、その中で魅力ある高等教育機関の方々はもちろんでございますが、学生の皆さん方にも地域の特性を生かした新しい商品の企画開発などもお願いできれば、そのように思っているところでございます。結びになりますが、横田理事長、関学長をはじめ、久留米信愛女学院短期大学の皆様方のご活躍と、そして大学のご発展をご祈念申しあげまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

短期大学事務長 高柳 恭子

檜原市長様ありがとうございました。

それでは、これより議事に移ります。本協議会の議事は、会長である久留米信愛女学院短期大学学長により進行してまいります。それでは関学長お願いいたします。

4. 議 事

(1) 平成28年度久留米信愛女学院短期大学地域参画推進事業活動報告について(議事資料1)

学長 関 聡

本日の議事を進めてまいります。議題1の平成28年度地域参画活動報告について、事務局から説明をお願いいたします。

短期大学事務長 高柳 恭子

お手元の議事資料1-1をご覧ください。平成28年度久留米信愛女学院短期大学地域参画活動報告に移ります。各担当から報告をお願いいたします。椎山学科長よりお願いいたします。

幼児教育学科長 椎山 克己

こんにちは、幼児教育学科の学科長をしております椎山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。昨年度幼児教育学科の方では地域参画事業と致しまして、信愛つどいの広場を週3回開館しておりますけれども、昨年度延べ3,784名の市民の方が利用されました。また、信愛つどいの広場の開催にあわせまして、随時子育て相談を実施しており、約220件の子育て相談を受けております。並びに、子育て支援のための講座を月に1回程度、年12回開催をしております。その資料に書いていますとおりでございます。あと、学生による遊びの提供ですね、色々なゼミ等でしたものを、信愛つどいの広場に來た子どもたちに提供したりという活動をしております。それ以外に子育て、子どもの育成に関するボランティアとして、子育て支援講座のときの託児等ですね、地域の幼稚園、保育園から学校の方へ色々な行事等のボランティアの要請がきますので、それを受けているもので、大学側で把握しているものだけで延べ43名の学生が参加しております。8月には、主に幼稚園教諭を対象とした教員免許状更新講習を、50名定員で行っておりますけれども、延べ約250名全部埋まったかたちで実施をしております。それともう一つ、昨年度「まちなか万博！」の方へ、幼児問題研究セミナーの一環として「ココ、カラダ。」というコミュニティーダンスを新井講師の方が行いまして、「まちなか万博！」の事業に採択されました。ミュージックビデオでは久留米市内の各地の名所を中心に、ここのシティプラザの前でも踊っておりますけれども、撮影したものをSNS等で動画配信した他、12月に行われました、「くるめ光の祭典 ハッピーイルミネーションフェスタ」において、フラッシュモブの形で活動展開しております。後でこのDVDを少し御覧頂く予定となっております。

資料と致しまして、信愛つどいの広場の日程表を後につけております。それと、「ココ、カラダ。」の新聞に掲載されました記事も併せて付けておりますので、どうぞ御覧いただければと思います。以上でございます。

フードデザイン学科長 山下 浩子

皆様、改めましてこんにちは。フードデザイン学科長を勤めております山下です。日頃から学生共々各久留米市の所属長の皆様にお世話になっております。改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

フードデザイン学科の28年度の報告は、次のページ2ページ、3ページの方をご覧ください。項目にあわせて簡単に説明をさせていただきます。まず、2ページの1番のところですが、昨年度は公開講座を2講座「みんなの食育講座Ⅰ・Ⅱ」ということで、Ⅰは「卓（テーブル）へのお誘い」そしてⅡは、「健康寿命を延ばす食生活」ということで行いました。それから、真ん中の2番目のところ、食育事業への参画ということで、ここ数年お世話になっておりますけれども、（1）のところにあります福岡県魚市場株式会社久留米魚市場主催の「魚屋さんの調理教室」でお世話になっております。それから（2）の「第42回ふるさとくるめ農業まつり・くるめ食育フェスタ2016」の方にも展示で参画をさせて頂いております。それから（3）の久留米市商工会議所の観光飲食業部会主催の、「キラリ久留米農産物アイデアレシピコンテスト」にも参画させて頂いております。今年度もまたお誘いを受けております。それから、3番目は私ども講師が中心となりまして、食育講座をこのように勤めておりますというご報告ですが、高等教育コンソーシアム久留米市民公開講座での講師なども昨年度は勤めさせて頂きました。3ページの方にいきまして、4番目、食育講座の施設開放ということで、（2）にあります久留米市学校給食会の研修会に私どもの調理室を使って頂いております。それから、5番目はその他とありまして、1・2・3・4番目までは例年の内容ですが、特に（3）の地域企業との共同開発ということで、この事業は、福岡県及び久留米市と本学の産官学連携事業で、27年度と28年度の研究内容です。本年度と書いておりますけれども、28年度は「ぶどうの樹」という岡垣町にあります会社と共同いたしまして、「ココナッツミートソースパスタ」というのを紹介いたしました。更に、お手元の卓上の上にカラーのチラシを置かせて頂いているんですが、この6月からその企画で開発いたしました「ココナッツドーナツ」を販売致しております。今日のお土産にも致しておりますので、どうぞご試食くださいませ。4番も久留米市就業支援事業における食育ボランティアということで、今年もまた7月に行う予定になっております。それから5番以降が28年度からの新規の内容で、5番目は生活協同連合会グリーンコープ様と共同で、学生が考えたレシピをカタログに載せて頂いたりもしております。それから、6番目のところにありますのは、協働推進部男女平等推進センター様からお誘いを受けまして、昨年「くるめフォーラム2016」の方に展示の内容で参画させて頂きました。これも今年もお誘いを受けております。7番目のところは久留米商工会議所様の青年部の方の主催で昨年はこちらの部会の方が中心となられまして、久留米大祭記念事業「くるめ緑祭」が行われ、そのイベントの方にも参画させて頂いているという状況です。以上の内容は、後ろの方にあります添付資料の3番から7番のところに、学生の活躍等を紹介させて頂いておりますので、また改めて御覧いただければと存じます。ありがとうございました。

ビジネスキャリア学科 （地域参画推進センター長 椎山 克己）

続きましてビジネスキャリア学科の報告をさせていただきます。3月で廃止となりましたので、代わって私の方で報告をさせていただきますが、ビジネスキャリア学科の方は、昨年度は市民向けの公開講座の実施ということで、「シニアのためのパソコン講座」を2回実施しております。8月から

9月にかけては、医療事務実習で、久留米市内の4つの医療機関にご協力をいただいております。3つ目は、4月29日にここで行われました「くる楽衆国まつり」の際に、一番街商店街にモバイルハウスを配置しまして、このシティプラザで行って欲しいことを市民の方から書いて頂いたものを、後日それらを整理して久留米市へお届けさせて頂いております。4番目に「まちなか万博！」先程、幼児教育学科の方でも申しあげましたけれども、ビジネスキャリア学科の方もコンペティションの方へ参加しまして、採択されております。11月3日に久留米シティプラザ「かたちの森」で「まちなかアロマ森林浴」というのを実施しております。5番目に、信愛クリスマスショップ「メルシィ」の運営ということで、12月17日の1日限定になりましたけれども、クリスマツショップを開催しております。六ツ門商店街の「筑後川まるごと市」様の店舗内で実施をしております。その時には修道会で製造しました焼き菓子等を販売させて頂きました。以上でございます。

宗教部長 阿久根 政子

宗教部長のシスター阿久根でございます。よろしくお願いいたします。宗教部では毎年、特別公開授業と、それから宗教行事について報告させて頂いております。28年度の特別公開授業の方は、信愛教育のテーマが前期が「愛と奉仕」、後期が「人間の尊厳」というテーマになっておりましたので、特別公開授業ではボランティアについて久留米ユニセフ協会事務局長の渡邊先生にお話しをして頂きました。そして、後期では「人間の尊厳」という大きなテーマについて、御受難会の宗像の修道院長であられる染野神父様に来て頂きまして、1日練成会を行いました。人間とは何かという大きな問題を学生達も真剣に考えておりました。その次に、宗教行事でございしますが、毎年5月には聖母祭、11月には追悼祭、12月にはクリスマス、というそれぞれの月にあった宗教行事を行っております。聖母祭では世界の平和のため、世界中の母親のためにマリア様の御保護の取り次ぎを願って祈りと静かな時を過ごしました。そして、11月の追悼祭では、特に28年度は熊本の地震がございましたので、亡くなられた方々の死を悼み、お祈りを捧げました。そして12月は例年のごとくクリスマスについての神父様の講話をいただき、その後、荘厳なミサを挙行されたわけですが、特別公開授業のときにボランティアについて渡邊先生からお話しを伺い、11月の追悼祭と合わせまして、この年はとても学生がボランティアについて真剣に考え、実践に移せた年だったと思っております。ご報告以上でございます。

教務部長 山下 浩子

教務部長を今年度より担当しております山下と申します。教務部の報告は5ページ、宗教部の下の部分ですが、高等教育コンソーシアム久留米の事業の一環と致しまして、そこに上げております単位互換、それから共同講義の方を開講して、講師の方を勤めさせて頂いております。ご覧ください。別件ではございますけれども、この資料の後ろから3ページ目をめくって頂きたいのですが、向きを横に頂きまして、こちらに本学の29年度入学生幼児教育学科、フードデザイン学科のカリキュラムを載せております。その中で特に新しい部分は、最初3ページを横に向けて頂いた右側の下から4行目のところに幼児教育学科「チャイルドプロジェクト」というのがございます。それから1ページめくって頂きまして、やはり下の段の右側下から10行目というところでカタカナの字でフードデザイン学科「フードプロジェクト」というのを新規に開講しておりますけれども、2学科この科目を共同で取り組みを致しまして、地域参

画事業等に学生共々外に出ていこうと思っております。このカリキュラムの方是非またご査収頂きまして、また色々アドバイスいただければと思っております。めくっていただきまして、最後のページ添付資料の14ということになっておりますけれども、こちらは本学の「履修証明プログラム規程」という部分を上げております。この履修証明プログラムの内容は、上段の方に「幼児教育学科子育て支援プログラム」、中段のところに「フードデザイン学科食と健康プログラム」というものを立ち上げております。是非地域の社会人の方等にこの履修を進めていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

学生部長 原 浩美

皆様こんにちは。学生部長を致しております原浩美と申します。よろしくお願いいたします。

学生部は、ほぼボランティア活動を中心に28年度の報告をさせていただきますが、お手元の資料の6ページでございます。それに従いまして、ご報告させていただきますと思います。1番のユニセフ協会の街頭募金、2番の地域交流ボランティアの清心慈愛園でのボランティア活動は、熊本地震のために中止、延期になりましたのでそちらの方はそのようにご報告させて頂いております。3番でございますけれども、学内におきまして久留米警察署 防犯生活課の方より、安全についての講演を頂きました。内容につきましては、独り暮らし、夜の一人歩き、女性の日常に起こる危険な事柄の防止策と言うことで、非常に分かりやすくご講演いただきまして、学生も身の引き締まる思いで聞いていたようでございます。4番目に、久留米特別支援学校の「土曜活動フェスティバル」、5番目には特別養護老人ホームサン久福木の「土曜活動フェスティバル」8月6日でございます。参加者数は割愛させていただきます。6番目になりますが、高等教育コンソーシアム久留米、これは8月8日から11日。7番目、福岡県人づくり・県民生活部スポーツ振興課第36回ときめきスポーツ大会、これは9月10日に行われております。これにも参加させて頂きました。8番目、久留米信愛女学院幼稚園「信愛フェスタ」9月18日でございます。9番目に「筑後川マラソン2016」10月9日でございます。これも朝早くから、朝6時それから終わるのが5時くらいになりますけれども、メイン会場での集団給食提供補助を主にフードデザイン学科の学生、そして、コース給水所でのお手伝い、後片付け等含めまして幼児教育学科の学生ということで、2学科でしっかり活動させて頂きました。10番目になります、ノーポイ運動10月23日。11番目、第49回信愛祭。これは学内で例年のように信愛祭を行っておりますけれども「Love makes us strong～愛は私たちを強くする～」というテーマのもと、全員で実施いたしました。12番目でございますが、これは、またユニセフ協会のハンド・イン・ハンドということで、街頭募金を12月にさせて頂いております。13番目、久留米信愛女学院幼稚園でのクリスマスのお祝い会ということで、これにも参加させて頂いております。※の方ですけれども、ミスがございまして、中程の文章にございますけれども。“査結果”となっておりますけれども、この“査”は省いて頂きたいと思えます。大変お手数をお掛けして申し訳ございません。卒業生意識調査の実施でございますが、平成24年度～平成26年度卒業生を対象に、意識調査を実施いたしました。その結果を6月の教授会にて報告致しました。最後に、まとめとなりますけれども、平成28年度は41件のボランティア依頼が本学にありました。その内、最初にもご案内致しましたように、熊本地震の影響で参加予定の2件は行われなくなりましたが、9件の活動に学生66名、教職員18名が参加致しました。以上でございます。ありがとうございます。

就職部長 山村 涼子

皆さまこんにちは。今年度より就職部長を勤めております。山村涼子と申します。どうぞ宜しくお願い致します。活動報告をさせていただきます。就職部の方、まず1番、外部講師による就職支援講座ということで、1番のキャリアガイダンスⅠ、これは1年生の授業の中で、以下のような項目で就職支援講座を実施致しました。2番のキャリアガイダンスⅡ、これは2年生の方の授業の中で、就職ガイダンス等の実施をしております。次の8ページの3番、キャリアガイダンスⅡこれも2年生の授業の中で、以下のようなキャリア形成支援講座を実施致しました。9ページの4番、保育職の面接講座。これは就職部の方で地域の保育園の園長先生等に講師でおいで頂きて、幼児教育学科2年生の方に実施いたしました。5番目、これは保護者対象就職ガイダンスで、保護者を対象に、就職活動を支える上での注意点ということで実施をいたしております。ここまでの、外部講師による支援講座で、次の2番は上級生や卒業生による就職支援講座をしました。まず1番、就職内定報告会ということで、これは1年生に対して、就職の内定した2年生より就職活動についての直接指導を行いました。2番目は卒業生との懇談会ということで、現場の実情等を卒業生から在校生の方へ指導して頂くという内容のものです。続きまして、10ページ3番の卒業生の早期離職防止プログラムということで、1番のホームカミングデーを実施致しました。その年の3月に卒業しました卒業生に対して、5月の最後の日曜日に、ちょうど仕事に対する不安ですとか悩みを持っている頃なので、早期離職を軽減するということで行っております。それから4番、福岡県私立幼稚園振興協会 筑後・北部連盟主催エントリーセッション2017に参加しております。それから、5番目、久留米市保育協会私立保育園保育士、調理員、本学はここまでのところでの就職希望者登録をしております。それから、6番目、福岡市保育協会主催就職説明会に参加をいたしました。それから7番目、若者と地元経営者との交流会参加ということで、こちらは筑後中小企業経営者協会主催で、久留米大学で行われました。若者と地元経営者との交流会にフードデザイン学科の学生が参加致しました。8番目に「卒業生に対する専門就職先からの評価に関する調査」、これは毎年そこに書いておりますように、卒業生を対象にした就職先へのアンケート調査を実施し、学内で活用をしております。11ページの9番その他のところで1番、学生の地元情報誌への取材協力ということで、別紙の添付資料の11と12、ちょうど裏表で、久留米市地元企業魅力発信情報誌「くるめで働こう！」というものの、第8号と第9号に本学の学生が取材協力をしております。その他の2番のところ、平成28年度の本学の就職進学状況、及び久留米市内への就職率としまして、まず1番の昨年度は卒業生が112名おりました。その内就職を希望した者、また内定した者共に107名でございましたので、就職内定率は100%でございました。卒業生112名に対する実質の就職率としましても95.5%でした。昨年度は進学希望者がおりませんで、全員が就職ということでした。昨年度の就職内定者の内久留米市内への就職率が41%、ちなみに就職内定者107名の内、久留米市内在住の学生は36%でございました。就職部の報告は以上でございます。

入試広報部長 江越 和夫

入試広報部長の江越と申します。どうぞよろしくお願い致します。入試広報部からは広報活動及び高大連携推進事業についてご報告申し上げます。まず高校訪問ですけれども、福岡・佐賀・長崎・大分・熊本県の306校について、本学の教育内容や募集要項について説明しております。

久留米近郊の高校に高校訪問しますと、割合、高校の先生が言われるには、本学は「きっちりと教育して就職まで面倒見てくれますね」「面倒見の良い大学ですね」という風によく言って頂いております。確かに先程、就職部長からも言うておりますように、就職を希望する人は全員が就職を決めておりまして、3年連続の就職率100%を達成しています。高校訪問次、及び入試説明会、これは高校の先生を対象として、本学で説明会を行いました。あと、オープンキャンパスを5回。そして進学説明会、これは業者主催の進学説明会ですけども、合計42会場に参加いたしました。

続きまして、高大連携推進事業ですけども、高校生が将来社会人になる時、本学の場合は栄養士とか保育士とか幼稚園教諭等の、仕事の内容について色々と紹介することになります。実施致しました事業は、まず南筑高校ですけども、プログラム名を「信愛ライフデザインカレッジ」ということで、期日が4月から次の年の2月までですけども、2年生の7名を対象とし、23週、3学科の特徴を活かした内容を行っております。続きまして12ページ、13ページですけども、明光学園高校、ここはプログラム名が「キャンパスデザイン講座」ということで、1年生22名を対象に行いました。福岡海星女学院高等学校、プログラム名が「ガイアの時間」ということで、ここでは主に幼児教育関係の内容で高大連携で交流しております。誠修高等学校、ここも7月7日ですけども保育実習の事前指導、こういったところで行いました。あと5番目ですけども久留米信愛女学院高等学校、プログラム名が「信愛接続プログラム」ということで1年生、そして、13ページの片括弧2番ですけども2年生、そして片括弧の3番が3年生で、それぞれ接続プログラムを行いました。三井中央高等学校ですけども、1年生38名を対象に音楽を取り入れた保育実習ということで行いました。7番目は、これは久留米高等学校の生徒による訪問調査ですけども、調査の内容は社会と幼児教育についてということで、メディアが幼児に与える影響等ということで、調査がありました。こういった形で高大連携推進事業を行いました。入試広報部からは以上です。

図書館長 榎山フミエ

図書館長のS r. 榎山と申します。よろしくお願い致します。図書館はキャンパスにありますけれども、そこで4つのことを取り組みました。一つが職業体験研修の実施ということで、中学2年生が体験学習と言うことで対外的にあちこち出回っておりますけれども、図書館では2名の生徒を受け入れて、指導を行いました。利用はよくするんですけども、図書館の仕事がどういふことなのかということを実際に体験し、実習生はよろこんでいました。2番目は自殺対策パネルの展示ということで、これは久留米市保健所の用意したパネルを展示を致しました。図書館との合同企画として行いました。28年度で3年目であり、この29年度も実施の予定です。3番目としましては、本学研究紀要というものをしておりますが、39号を国立情報学研究所WEBページに全部公開しました。それから5番目としては、図書館主催の公開講座ということで、1件でしたけれども、「人生半世紀を超えて、絵本あそび〜幼い頃に戻って一緒に楽しみましよう〜」を実施しました。内容は、本の紹介とか実際に読み聞かせ等で、楽しい講座ができたんじゃないかと思います。9月30日に、受講生は少なかったんですけども、熱心に聞いておられました。以上、活動報告でございます。

地域参画推進センター長 椎山 克己

今年度から、地域参画推進センターのセンター長も兼任することになりました椎山でございます。地域参画推進委員会としましては、主にこの会議のとりまとめ、それと、部の方でも行っておりますけれども、高等教育コンソーシアム久留米の連携を行っております。昨年度は市民公開講座で本学は、「災害時“食”をどうする？」というテーマで石井妙子教授が講座を担当しました。二つ目としまして、「青少年のためのサイエンスモール in くるめ2016」を高等教育コンソーシアム久留米の小中高連携部会が、12月24日、25日福岡県青少年科学館において実施しまして、高校生が来て講座を受け、また高等教育コンソーシアム久留米に参加する各学校がそれぞれブースを出展しました。その中で本学の方は「微生物パワーを学ぼう」というテーマで展示発表を行っております。以上でございます。

学長 関

以上の件につきましてご質問、ご意見はございませんでしょうか。
それでは、議題1についてはご承認いただいたことといたします。次に議題2、平成29年度の活動計画について事務局から説明をお願いします。

(2) 平成29年度久留米信愛女学院短期大学地域参画推進事業活動計画について(議事資料2)

事務長 高柳 恭子

お手元の議事資料2をご覧ください。平成29年度久留米信愛女学院短期大学地域参画活動計画報告に移ります。各担当から報告をお願いいたします。

幼児教育学科長 椎山 克己

ここからは座らせて頂いたままで失礼致します。

幼児教育学科の方でございます。今年度につきましても「信愛つどい広場」の開催をいたしております。週3回という形です。それと、信愛つどいの広場で支援講座を12回予定しております。議事資料2のところをご覧くださいと思います。3つ目に、教員免許状更新講習を8月に予定しておりまして、6月16日に受付があったんですけれども、その日の内に50名定員に達しております。今キャンセル待ちが4、50名各講座にいるという状況でございます。また、ここには書いておりませんが、先程「まちなか万博！」でお話をいたしました「ココ、カラダ。」プロジェクトホトミクスという名前のプロジェクトで行っておりますが、今年度もこれを継続しています。この事業自体はダンスをツールに産後ママ、赤ちゃんから子供、お年寄りまで無理なく楽しめるダンスをツールにそういう活動をしながら、まちなかの活性化、賑わい創出を狙うと言うことで昨年行っております。今年度はこの活動をさらにダイナミックに進めるべく、今「久留米市キラリ輝く市民活動活性化補助金」というのがございますけれども、こちらの方に応募をさせて頂く予定で計画を進めている最中でございます。引き続きオリジナルダンスの制作を進めると共に、今度は、お年寄りから未成年まで楽しめるカラダ遊びとか、世代や経験等の違いを超えたふれあい遊びなどをテーマに学生たちが計画を立てております。あと「まちなか万博！」ですが、ハイマート様から今年の12月の広場を中心としたイベントの参加への打診というものを

頂いておりますので、そういう形で行います。来年度からチャイルドプロジェクトを開講する形になるんですけれども、今年も2年生の方で幼児問題研究セミナーという中でそれぞれ地域の方に出て行って活動しようということで、壁面装飾とかそういう形で、地域の方へ出て行って活動を行っております。以上が本年度の予定でございます。よろしくお願い致します。

フードデザイン学科長 山下 浩子

続きまして、フードデザイン学科の方です。資料の方をご覧下さい。上の所に“事業目標及び計画”とありますけれども、フードデザイン学科は前年どおり、学科による公開講座、今年度は「みんなの食育講座Ⅰ～Ⅲ」と、大きく3講座用意しております、全部で9講座開講する予定にしております。それから、先程もカリキュラムの方で紹介致しましたけれども、フードプロジェクトという科目を新たに立ち上げましたので、本年度の後期から地域での、特に食支援を中心に幼児教育学科と地域に出ていこうと考えております。その他は例年通りの食育事業への参画、食育講座の講師を受託する、それから食育講座等に対する施設の開放、そして学生共々の研究と致しましては、レシピ開発及び商品開発等を考えております。裏のページを見て頂きますと、10月から3月までありますけれども、一番最後のその他の所に、先程のフードプロジェクトの支援活動をしようということと、久留米市就学支援事業における食育ボランティア、それから、現在声がかかっているのが、福岡県育成甘柿「秋王」を使った商品開発研究会事業に参画していこうと予定致しております。以上です。

宗教部長 阿久根 政子

宗教部ご覧下さい。宗教部は29年度は、キリストの教えに基づいた価値観を身につけ豊かな心を持った女性となるために、本年度のテーマは「女性と生命」、後期が「世界の平和」について学ぶことになっております。先程も申し上げましたように、28年度は「愛と奉仕」そして「人間の尊厳」というテーマでしたけれども、本年度は「女性と生命」と「世界の平和」という前期、後期に分かれております。5月には、もう終わりましたけれども「聖母祭」が5月17日に終わりました。そして、「特別公開授業」6月に、明日行われるんですが「ドミニカ共和国の子供たちの現状と現地での活動について」のお話を伺うことになっております。次のページの方の10月ですが、これも公開授業となっておりますが、テーマと致しましては「世界の平和」をテーマとした1日の練成会、公開授業でございます。11月は例年のごとく「追悼祭」、11月22日でございます。12月はクリスマス祭を12月20日を予定致しております。以上でございます。

教務部長 山下 浩子

続きまして、教務部の方です。やはり表の事業目標の所をご覧下さい。そのまま読み上げますけれども、高等教育コンソーシアム久留米の事業の一環ということで、例年通り「単位互換」を予定しております。「単位互換」の方は前期が本学の方では10科目の開講、後期は6科目開講する予定です。その最後の所に上げておりますけれども、例年行っております「共同講義」の方は、この高等教育コンソーシアム久留米の部会の方で昨年度から検討事項といいますが、今年度どのように開講していくかという検討を重ねました結果、地域支援部会の方が主催しております「市民公開講座」と共同で実施していく事になりました。ここには準ずる予定となっておりますけれども、先の会議でその方向でいこうという風に予定致しております。以上です。

学生部長 原 浩美

では、続きまして学生部でございます。学生部の29年度の計画といたしましては、例年と同じ内容にはなりますが、地域のボランティア活動や行事への参加を通じて、地域へ貢献すると共に、地域社会の一員としての自覚を持たせるところです。本年度もさまざまなボランティア活動への参加をますます推進していこうと思っているところでございます。4月、5月はもう既に実施している分でございます。6月の安全についての講話も先週済んでおります。今後またいろいろなボランティアが沢山、ありがたいことに本学の方へ申込がきておりますので、随時学生の方へ開示して呼びかけを行っているところでございます。次のページを見て頂きますと、学生部のその他のところでございますけれども、下の学習習慣定着支援ボランティアへの参加、これを今呼びかけを致しまして、2名ではありますが、申し込んでいる状況でございます。これは随時受付ということを聞いておりますので、また今後とも声をかけながら、学生の参加を呼びかけていきたいと考えているところでございます。また、卒業生のアンケート調査も27年度から29年度ということで実施をしていく方向で今準備している所でございます。以上でございます

就職部長 山村 涼子

就職部の活動計画です。その事業目標の所にも書いていますように、今年度も地域のニーズを把握し、幼稚園、保育所、地元産業界の要望にも考慮してキャリア教育を行い、地域社会で活躍し、貢献する人材を育成する。また、幼稚園、保育所の園長や地元産業界の人事担当者などから直接指導を受ける面接講座、これも今年度は終了しましたけれども、また、卒業生による就職支援講座など本学独自の指導を行い、地元への就職率の向上を目指すというのを目標に掲げております。以下の計画について項目の所に丸印が付いているものは、先程ご紹介しましたキャリアガイダンスのⅠとⅡこれは授業になるんですが、就職部員が担当しておりますので、就職部と連携して実施してまいります。表の一番最後、9月のところで今年は、「若者と地元経営者との交流会」これは高等教育コンソーシアム久留米の取り組みなんですが、9月19日に予定されているところです。あと、裏の方のその他のところ、「専門就職先へのアンケート調査」、「企業研究、企業訪問など就職及び進学に関する全般」については、実施をしていくように予定しております。以上でございます。

入試広報部長 江越 和夫

入試広報部です。就職部の右隣にあります。ちょっと読ませて頂きますが「面倒見の良い大学」をアピールして入学者増を目指す、ということで例年通り広報活動を行っていこうと予定しております。特に今年度は男子高校生にいかに関わりかけようかといったことが検討事項でありまして、なかなか信愛と言いますと女性ですけども、そこに男子高校生が来てくれるのかなというところですね。どういう風に働きかけたらいいのか、ということで考えておるところでございます。あと、高大連携推進事業ですけども、既にもう南筑高校との「信愛ライフデザインカレッジ」が始まっておりまして、6月26日（月）までで11回行っております。今年は南筑高校の2年生が11名参加してくれておりまして、3月12日までで28回を予定しております。あと、福岡海星女子学院との「ガイアの時間」講座ですとか、例年通りこういった高大連携推進事業を進めていく予定であります。以上です。

図書館長 樫山 フミエ

図書館の29年度の計画と致しましては、昨年同様の活動ということになりますけれども、今年は公開講座の方を2回開催したいと思っております。テーマとしましては、10月ですけれども「日本キリシタン史と高山右近について」と、それから「流れ星を見よう！」ということでこれは夜の親子の開催になるんですけれども、変わった公開講座ができるかなと思っております。よろしくお願い致します。

地域参画推進センター長 椎山 克己

最後になります。地域参画推進委員会でございますが、主に赤字で示しております、高等教育コンソーシアム久留米、これの学内での推進を図っていきますが、特に先程から出ていない、広報くめ共同編集ですね、これに何回か本学の学生が記者としておじゃまさせて頂いております。今年も行う予定でございます。あと7月29日に理科教育の「理工系女子応援事業」というものを企画しております、その中にも参画する予定でございます。あと、「小学生と大学生のふれあい教室」の方にはボランティアでの参加になるかと思います。あと、裏のページですね、最後のページの所の「共同講義」と「市民公開講座」の方ですね。これは共同で開催ということで今計画中でございます。あと12月に「サイエンスモールinくめ」12月23日の1日になりますけれども、行われる予定でございます。併せまして今年は、「理科読を体験しよう」というプログラムを、今コンソーシアム久留米の方で検討しております。絵本を読み聞かせながら実験をするという形で、でんじろうさんと一緒に活動されている東海大学教授の滝川洋二先生を招いてする予定になっております。こういう予定と、もう一つ、昨年度までビジネスキャリア学科行っておりました「メルシィ」を引き継いだ形で、地域参画推進委員会の方で中心になって行うことを今検討しております。学科としまして、幼児教育学科とフードデザイン学科の2学科になりますので、今私の頭の中にあるのはやはり子供の貧困の問題等もありますので、「子供食堂」的なことを12月の時期に出来たら良いかなという風に思っておりますが、また、正式に企画が決まりましてからご相談にあがりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。以上です。

学長 関 聡

以上の件についてご質問、ご意見はございませんでしょうか。
それでは議題2についてもご承認いただきました。ありがとうございました。
ここで、先程の報告でもありまして、コミュニティダンス「ココ、カラダ。」のミュージックテープが完成致しましたので、ご覧頂ければと思います。ロケ地は久留米の名所を中心に選んでおります。

(3) DVD視聴「ココ、カラダ。」

地域参画推進センター センター長 椎山 克己

幼児から、お年寄りまで出来るというのがベースです。身体の障害があっても出来るようにということで、考えたものでございますので、今一緒に見ながら踊って頂いても構いませんので、ご覧下さい。

～DVD上映～

この4人は今年卒業した学生でございますけれども、後で色々なメンバーが出てきます。

～DVD上映後～

今年度は、このダンスだけでなく遊びも含めた新たなダンスも今研究しているようでございますので、そういうツールを使いながら、色んな世代を超えて、障害を超えて、性別を超えて、コミュニティとして繋がりを付けていければということを、コンセプトとしておりますので、是非これからもご協力をよろしくお願い致します。特に、キラリ輝く市民活動活性化のほうですね、できるだけ補助金がつけばいいなと思っておりますので、よろしくお願い致します。

学長 関 聡

それでは、これより学外委員の皆様方から本学の地域参画活動についてのご意見を頂戴したく存じます。これまでに各担当者が報告申し上げたことに限らず、何でも結構です。本学の地域参画活動の推進において協議会の皆さまのご協力が不可欠であります。是非、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたく存じます。お席の順にご意見を頂戴したいと思います。大津秀明久留米市教育長様からお願い致します。

（４）意見交換

久留米市教育長 大津 秀明

本年４月から教育長を務めております大津でございます。久留米信愛女学院短期大学の皆さんにおかれましては、久留米市教育行政の運営、発展のために日ごろよりご支援ご協力を大変頂いております。心よりお礼申し上げます。本年度は、「夢に向かって学ぶくるめっこ」を目指す子供の姿とした、第３期久留米市教育改革プランの２年目になっております。第２期プランにおいても確かな学力の育成を実現するために、信愛女学院短期大学の学生の皆さんには、ご協力頂いております「小中学校学習習慣定着支援事業」は昨年度から「小中学校久留米学力アップ推進事業」と事業名を一新しまして、第３期プランの重点項目の一つであります久留米版コミュニティースクールの推進の主要事業として、位置づけをしているところでございます。この事業は各学校の教職員だけでは出来ない事業であります。これまでも、学校・家庭・地域の連携を目指しております。大学関係者や学生の皆さんの協力が必要不可欠となりますので今後とも引き続きご協力の程よろしくお願い申し上げます。先程報告もありましたとおり、今回２名の学生さんが手を挙げてくれているということでございます。随時受付しておりますので、さらに１人でも２人でもよろしくお願いいたします。また、組合立の三井中央高等学校との高大連携事業につきましては、毎年、幼児教育に関する講演及び実技講習会をお願いをしております。先程、ご報告がありました通り、平成２８年度も幼児教育学科長の椎山教授に「音楽を取り入れた保育実習について」というテーマでご講演を頂きまして、本校の三井中央高校のライフデザインコース１年生３８名が受講をしております。椎山教授の子供の心に直接伝わる音楽を使った教育方法で、中でも手遊びの実技指導につきましては、生徒達にとって豊かな感受性、協調性、表現力を養ううえで大変貴重な体験だったと伺っております。三井中央のライフデザインコースは、主に食物栄養系や保育系への進学や就職を希望する生徒を対象としております。おかげさまでこちらの短期大学にも、本年度２名の生徒が入学をさせて頂いております。今後とも三井中央高校へのご支援の程よろしくお願い申し上げます。すみません、もう１点ユニセフに関するボランティア活動のご報告も先程あっております。ご承知かと思いますが、久留米ユニセフ協会は本年度５０周年を迎えるようになっております。この記念事業と致しまして、９月２９日に石橋文化ホールで

記念事業を行います。記念講演会と致しましては、テレビ等に出演されておりまして、有名でございますけれども、ジャーナリストの池上彰さんの講演を頂いて、その後、記念シンポジウムと言うことで、市内の久留米大学、信愛短期大学、アジア太平洋大学等の学生生徒の皆さんと、パキスタンのユニセフ現地事務所、ここを映像で結んで直接対話をして、「今私たちにできること」というテーマでシンポジウムを行うような企画になっております。具体的な中身についてはこれから決まっていくことになりますけれども、信愛の皆さん方にもご協力頂くことになるという風に思っておりますので、こちらの方についても是非よろしくお願い致します。以上でございます。

学長 関 聡

ありがとうございました。次に國武 三歳 総合政策部長様お願い致します。

総合政策部長 國武 三歳

皆さんこんにちは、総合政策部長の國武でございます。私ども総合政策部では大学と市の事業協力協定に基づく事業の推進。高等教育コンソーシアム等を通して、学術研究都市づくりの総括的に担当させて頂いているところです。平成21年に市内の5大学等で設立されました高等教育コンソーシアムも、8年を経過をいたしましてご案内がありましたように、数多くの市民公開講座などで様々な活動を活発にさせて頂いているところでございます。また、近年では広報誌学生通信のページにもご協力頂いてもらっています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

地方創生も担当しておりまして、この取り組みでは高等教育機関は非常に重要な役割を担って頂いております。地域の将来を担う人材育成、学生の地元就職はその事業の中でも非常に大きな課題と言うことでございまして、しっかり対策の方をして頂いているようでございますけれども、引き続きよろしくお願いしたいと思います。子育て支援は重要なテーマでございますものですから、是非より多くの皆さまに、人材も足りていないというようなところでございますので、ご協力の程お願いしたいと思います。また、こうした各点も、地域に根ざした教育機関ということで、信愛女学院では取り組まれてきましたけれども、さらに共学化ということで、新たな視点で人材育成に取り組まれるということでございますので、ここからの展開が大きく変わるんじゃないかと、期待しているところでございます。また、地域の活性化という点では学生の皆さんに、柔軟な発想とか、創意工夫を活かす仕組み作りを是非やっていくということ、また、学生の皆さんが主体的に地域活動に参加したくなる環境作りを進めていくということが大事でございまして、これが誰もが住みたくなるまちづくりに繋がるということでございます。学術研究都市づくりの課題のなかでも地元就職とあわせまして、地方創生とか学研都市づくりの重要なテーマということでございますので、検討させて頂いているところです。ご協力を是非お願い致します。また、併せまして市のプロモーションとか、情報発信が実は課題と言うところで、市長のほうからもいつもおしかりを受けているんですけども、今ありましたような、「ココ、カラダ。」のプロモーションビデオ、そういうのも良い情報の発信の道具になるだろうということで、若い皆さんのご協力が今後也不可欠となると思っておりますので、今後とも連携とご協力を是非よろしくお願いしたいと思います。私からは以上です。ありがとうございました。

学長 関 聡

ありがとうございました。次に井上 健介 協働推進部長様お願い致します。

協働推進部長 井上 謙介

皆さまこんにちは、キラリ補助金を担当しております協働推進部長の井上でございます。協働推進部は市民、そして学生の皆さんを初め、地域コミュニティ組織や市民活動団体、事業者など地域社会を構成する様々な方々との共同によるまちづくりを推進しております。また、政府コミュニティへの推進や、人権啓発、そして男女共同参画の推進に関する事務も所管させて頂いております。本日は私どもが所管いたしますイベントやボランティア活動等への参加のお礼と、キラリ補助金の活用についてをお願いをさせて頂きたいと思っております。まずイベントについてですが、先程のお話にもありましたが、昨年度実施いたしました久留米女性週間記念事業の「くるめフォーラム」には、信愛女学院短期大学の学生の皆さん20名がパネル展示に参加され、日ごろの活動や成果などを出展頂きました。本年も参加して頂けるとお聞きしました。どうぞよろしくお願い致します。次に、ボランティア活動につきましては、昨年の熊本地震の被災地支援のためのボランティアバス事業に13人の皆さんにご参加頂いております。また、くるめ楽衆国まつり、筑後川マラソンそして土曜夜市等、1年を通じて様々な活動に参加、そして参画を頂いており誠にありがとうございます。このような活動を通して学生の皆さんには、ボランティア活動や地域活動、そして久留米市に興味をもって頂ければと思っております。最後に「キラリ輝く市民活動活性化補助金」についてでございますが、市内には約1万人の学生さんがいらっしゃる訳ですが、久留米市では学生の皆さんの自由な発想力、そして行動力、これを是非地域課題の解決やこれからのまちづくりに活かして頂きたいと思っております。そこで、そのような学生の皆さんの活動を積極的に支援しようとキラリ補助金には平成26年度から「学生活動活性化事業枠」を設けておりますし、また、今年度から全ての大学生の活動従事者への費用燃焼を対象経費に認めるなどの見直し等も行っております。信愛女学院短期大学の皆さまには、先程ご活用して頂けるというありがたいお話もございました。この「キラリ輝く市民活動活性化補助金」の活用をはじめ、今後とも引き続き市民との共同によるまちづくりに対するご支援、ご協力を是非よろしくお願い致します。私から以上です。

学長 関 聡

ありがとうございました。続きまして、野田 秀樹 市民文化部長様お願い致します。

市民文化部長 野田 秀樹

市民文化部の野田でございます。私どもの市民文化部、色んなジャンルを所管しておりますけれども、特に文化・スポーツ・生涯学習といった分野につきましては、市民の方々、出来るだけ多くの方々に参加、参画して頂けるというのが1番の目標でもございます。そういった面において、信愛女学院短大の学生さんを含めてですね、色んな形で日ごろから参画して頂いております。本当にありがとうございます。昨年からの大きな事業といえば、プラザもオープンしましたし、11月には美術館もオープン致しました。先程のご報告の中でもございましたけれども、学生さんの皆さん方には色んなアイディアを頂いておりますし、積極的なご意見も頂いております。おかげさまでプラザの方も昨年度で53万人を超える皆さん方にもおいで頂いておりますし、美術館につきましても、昨年11月オープンですが、企画展その他で7万6千人を超える方、また、石橋正二郎記念館も新しくリニューアルをしております、そこにも2万4千人を超える皆さん方にもご利用頂いております。特に、美術館を含めた文化センター一帯はですね、広い意

味で美術で言うキャンパスですね、そういった形でも活用もですね是非お願い出来ればという風に思っておりますので、学生さん達色んなアイディアがおりと思いますので、子供さんを対象としたイベントでも結構ですし、あその場所全体を是非ともご活用頂いて、色んな今までになようなアイディアを出して頂けると非常に嬉しいなという風に思っております。今現在、新体育館を建設しております、だんだん形が見えて参りました。たぶんもう少しすると、「うわー、こんなに大きいんだ」という風に思えばと思っておりますけれども。昨年もちよっとお話しましたが、メインアリーナは普通の状態でも3千人のお客さんが入りますし、アリーナも使えば5千人クラスの集客能力もございますので、スポーツ施設というだけではなくですね、色んなイベントであるとか、学生さんの発表の場とかですね、そういう活動の場としても当然ご活用は願えると思っておりますので、今まで市内でそういう規模のものが出来なかったというものも含めて、できるかなという風に思っておりますので、色んな形でご活用をお願いしたいと思っております。併せて、久留米で新しいアリーナを建設しておりますその関係も当然あるんですけども、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関しまして、事前キャンプ地とか、そういう部分の誘致についても今現在取り組みを進めております。今現在、ケニア共和国とカザフスタン共和国の方にもお話を、それぞれの国から久留米の方にもご利用頂く予定になっております。両国とも正式には決定しておりませんが、是非ともおいで頂けるように頑張っております。実際に来て頂けると言うことになると、当然久留米市との交流というのが新たに始まってくると思いますが、そういう意味では、学生さん達の色んな料理関係であったり文化であったり、そういう部分を含めて、色んな交流を私ども市民の皆さんと一緒にやっていきたいという風に思っておりますので、そちらの方も、例えば民族衣装であったり、その国の料理であったりとか、そういうもので久留米市民としておもてなし出来ないかなと、私どもも一生懸命知恵を絞りますけれども、色んな若い方の新しい知恵を出して頂けるといいなという風に思っております。特に、プラザ辺りも今後ですね、色んな若い人達のアイディアとかですね、スタッフについてもボランティアで学びながら手伝って頂くとかですね、色んなそういう制度も考えていきたいと思っておりますので、私共も幅広く色んなものが見えますけれども、それぞれのお立場で結構でございますので、是非とも色んな参画をして頂ければという風に思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。以上でございます。

学長 関 聡

ありがとうございました。続きまして、鶴木 賢 健康福祉部長様お願い致します。

健康福祉部長 鶴木 賢

皆さんこんにちは、健康福祉部長の鶴木でございます。健康福祉部では、ご存じのように障害者や高齢者など社会的に弱い立場の方々に対しての福祉介護施策をはじめとしまして、国民健康保険、それとか生活保護制度、こういった社会保障制度の運用、それから保健所も抱えておまして、こちらの方での疾病対策ですとか、地域保健事業、こういったことに取り組んでいる所でございます。市民の皆さまが健康で安心して暮らせるまちづくり、これを進めております。近年久留米市の高齢化率、65歳以上の方々が全人口に占める割合ですが、これが25%を超えているという状況で、ほぼ全国的平均とは変わりませんが、こういう中で、認知高齢者が増加をしていることですか、高齢者の社会的な孤立、こういったことが社会的に非常に深刻な問

題という風になっております。この様な中で久留米市では現在、高齢者に医療や介護、そして生活支援等が一体的に提供される地域包括ケアシステム、お聞きになったことはあるかと思いますけれども、これの構築に取り組んでおりまして、今やっておりますことが、医療と介護がうまく連携が出来るような仕組みづくりですとが、地域の皆さま方に、一緒になって地域にお住まいの高齢者を支えて頂く仕組みづくり、こういったことを進めている所です。さて、久留米信愛女学院短期大学におかれましては、健康寿命の延伸をテーマとした食育講座ですとか、図書館への自殺対策パネルの展示等、久留米市の保健福祉行政に多大なるご支援、ご協力を頂いているところでございます。また、保健所の管理栄養士や、保健士を派遣致しまして、短期大学1年生を対象に、毎年食育教室を開催させて頂き、多くの学生の方々に受講して頂いている所でございます。先日、国の動きですが、国は社会福祉法という法律の改正を致しまして、多様化、複合化する住民の生活課題に対して、地域の多様な主体が繋がって、まるごと支える地域共生社会づくりを進めるということが決定しております。先程申し上げましたのは、私どもは介護保険法に基づき、高齢者の方々をみんなで支えようという政策を進めておりますが、高齢者に限らず様々な世代で困っていらっしゃる方々を支えていこうという風な方向に拡大をしております。こういう事をふまえますと、今後、市民の皆さまをはじめ、地域の各種団体ですとか、貴重な地域資源の皆様方との共同というのがますます重要になってくるかなという風に思っております。従いまして、久留米信愛女学院短期大学の皆様方とももちろん連携が出来る点も様々多いと思いますので、今後ともご支援、ご協力の程どうぞよろしくお願いを致します。以上でございます。

学長 関 聡

ありがとうございました。続きまして、吉田 茂 子ども未来部長様お願い致します。

子ども未来部長 吉田 茂

子ども未来部長の吉田でございます。どうぞよろしくお願い致します。子ども未来部は子どもの育ちに関する施策を総括する業務と言うことで、子どもの笑顔があふれるまちづくりに向けまして、総合的な子どもの子育て支援に取り組んでいる所でございます。ご承知の通り、少子化の進行や核家族化、地域の繋がりの希薄化と、子育てを取り巻く環境につきましては、大きく変化をしております、子育て中の家庭が抱える課題も多様化をしています。こうした中で、子どもたちが夢と希望を持って成長できる社会を実現するためには、安心して子供を産み、育てやすい環境作りを進めていく、これが非常に大切だという風に考えております。このため、子ども未来部の方では、就学前の子どもの教育保育の体制の確保と、それから質の向上、それから地域子ども子育て支援、それから子どもの貧困対策、さらには少子化対策の一環ということで、若い世代の希望を叶える結婚支援などの事業、そういったものを含めまして、総合的な子育て支援に取り組んでいる所でございますけれども、特に大きな課題でございますのが、待機児童の解消の問題でございます。これまでも関係団体のご協力を得ながら、保育所等の利用定員を増やすための施設整備であるとか、あるいは保育士の確保に勤めて参りました。その結果、今年の4月現在ですけれども、国で言う待機児童数は59名ということになりました。昨年が78名でございましたので、若干改善はしているんですけども、それでもまだまだ多くの子どもさんが入所保留ということで、かなりの数の方が入れない状況がございます。その最大の要因につきましては、ご承知かと思いますが、保育士不足、これが一番だという風に考えております。本年から保育士

雇用安定助成事業と言うことで予算を確保致しまして、関係事業所と連携をしながら一層の保育士の確保に取り組んでいくところでございますけれども、こちらの信愛の卒業生は久留米市内の保育園とか幼稚園に沢山人所されまして、活躍をされております。これからもですね、是非優秀な保育士さんを地元久留米に送りだして頂ければという風に考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、本年10月にはですね、若い世代の希望を叶えて安心して子どもを産み、育てられる環境作りを推進するために、久留米版子育て世代包括支援センターをですね、本庁の16階に開設を予定しております。その中では、妊娠期から子育て期に渡るまで、切れ目のない包括的な子育て支援をワンストップで提供していきたいという風に考えているところでございます。現在、その準備を進めているところでございますけれども、信愛つどいの広場をはじめですね、色んな事業で連携できる部分があるかと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。また、さらに近年子どもの貧困対策というのが非常に大きな社会問題ということになっておりますけれども、久留米市におきましても、子どもさんが生まれ育った環境に左右されることなく、健やかに成長できるように子どもの貧困対策と言うことで、地域で取り組まれております子ども食堂の支援、さらには1人親家庭の子どもの居場所作り、こういったものにも既に取り組んでおります。こうした子育て支援の施策につきましては、信愛短期大学の皆様とはですね、色々連携しながら取り組める部分が多々あるかと思っておりますので、そういう意味でこれからもですね、ご協力をお願い申し上げまして、よろしくお願いをしまして、私からの報告に代えさせて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

学長 関 聡

ありがとうございました。続きまして、今田 利満環境部長様お願い致します。

環境部長 今田 利満

こんにちは、環境部長の今田でございます。環境部は、ご存じの通り廃棄物関係をはじめ、地球温暖化対策、政府対応制度のため公害対策、環境美化、変わった所では斎場や公地の管理運営と、環境分野全般を担当させて頂いております。信愛女学院短期大学の皆さんにおかれましては、大学としてクリーンパートナーの方に登録して頂いて、環境美化の活動をして頂いております、日ごろより環境行政にご理解、ご協力賜りまして誠にありがとうございます。昨年度もご報告させて頂きましたけれども、昨年の9月一般中間処理施設であります宮ノ陣クリーンセンターが本格稼働致しました。現在、上津クリーンセンターと南北2箇所体制で、市内から排出される廃棄物処理を安全に安定的に行っております。おかげさまで、昨年4月の熊本地震で発生した災害ゴミでございますが、こちらの処理につきましても1日30トンの範囲ではございますけれども、上津クリーンさんの方で受け入れておりましてですね、熊本の復興のお手伝いが出来ております。9月末で2,224トン、今年の12月まで受け入れる予定でございます。また、宮の陣クリーンセンターにはゴミの適正処理を目的とした施設に加え、環境教育学習の拠点として環境交流プラザを併設しております、温暖化をはじめとした環境問題について楽しみながら学べるように、色々なアイテムを配置したり、イベントやワークショップ等年間通じて開催しております。おかげさまで、昨年度は4万3千人ほどご来場頂いておりますが、ここでは現在10数名のボランティアの方々が環境パートナーとして、施設見学の案内やイベント等の企画実施等についてお手伝

いをして頂いておりまして、環境啓発学習施策の一翼を担って頂いている風な状況でございまして、今ではプラザの運営には欠かせない存在と、そういう風な形になっております。今後、担当の皆さまと相談しながらですね、活動の範囲や深さを広げていきたい、その様に思っている次第でございまして、もし興味をお持ちの学生の方がいらっしゃいましたならば、是非宮の陣クリーンセンターの方に来て頂きまして、担当職員や、環境パートナーの方と意見交換をして頂きたいな、という風に思っている所です。若者の感覚や視点でですね、お力添えを頂ければという風に思っております。ちょっと長くなりますが、もう一つ地球温暖化について簡単に話させてもらえたらなと思っております。平成21年12月に国連気候変動枠組条約締約国会議、COP21ですが、こちらの方で196カ国の国と地域がですね、温室効果ガス削減に向けてその取り組みの枠組を「パリ協定」という形で採択されておりますが、日本におきましてもそれを批准しております。国を挙げて温暖化対策に取り組むことという風にされておまして、久留米市におきましてもですね、近年ご存じの通りゲリラ豪雨や平均気温の上昇、猛暑日の増加等が見られておまして、農作物への影響等も今後予測される所であります。こういったなか、今年度、久留米市としては地球温暖化実行計画を見直したいと思っております、一層の温暖化の緩和や適応策、こちらの方に取り組んで参りたいという風に考えている所でございます。市民事業者、そして行政もですけども、それぞれが環境意識を持って自主的主体的に環境に配慮したライフスタイルやビジネススタイルこちらの方に展開していくことが何よりも増して一番重要なことという風に思っております、そのように促される仕組みやシステム作りにですね、私共も頑張っていきたいと思っておりますし、信愛女学院短期大学の皆さまのアイディアや推進連絡等のご協力、ご支援を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。以上でございます。

学長 関 聡

ありがとうございました。続きまして、山口 文刀 農政部長様お願い致します。

農政部長 山口 文刀

こんにちは、農政部長の山口でございます。農政部は農林水産業に関する業務を担っておりまして、振興を勤めている所でございます。久留米市では米・麦・大豆をはじめ、野菜・果樹・植木・苗木・花卉・畜産などの多種多様な農業が営まれておりますのでここで久留米市の農業をご紹介しますと思います。農林水産省が今年3月に公表致しました、平成27年の久留米市の農業産出額は、約324億円となっております。この産出額の数字はですね、全国で23位、九州で10位、福岡県内におきますと、2位の八女市の252億円の約1.3倍の県内ダントツの1位の名実共に農業都市でございます。その中で、花卉工業も非常に盛んでございますけれども、クルメツツジ、ツバキに関しましては、全国有数の産地になっておまして、山本町に「世界つつじセンター」、草野町に「世界つばき園」を整備しており、入場無料になっておりますので、是非お気軽にご来場頂ければと思っております。また、来年度の4月に全国のつつじをシンボルとする自治体が集まりまして、つつじを活用したまちづくりを全国的に発信するイベントとして「つつじサミット2018 in 久留米」の開催を予定している所でございます。この開催に合わせまして、市内のつつじの名所でございます、百年公園、森林つつじ公園、筑後川つつじ園を本年度に整備致しますので、来年度は咲き誇るすばらしいつつじをご覧頂けるのではないかと思います。是非足を運んで頂ければと考えております。さて、農政部では農政のマスタープランであ

ります「第2期食料・農業・農村基本計画」の中で、職業として選択できる魅力ある農業実現を全体目標に掲げまして、農業の振興施策事業に取り組んでいる所でございます。特に農業就業人口の減少や、高齢化による将来の農業担い手不足は懸念されておりますので、次世代の担い手確保と育成を重要施策として位置づけまして、新規就農者としての青年、女性農業者の育成に力を入れているところでございます。具体的な青年就農給付金等の給付金制度や、昨年からは、「久留米でやってみん農、就農なんでん応援事業」といたしまして、就農相談窓口の設置や、農業実践研修の実施、女性農業者を対象とした研修会などを開催致しまして、就農前から就農後の営農定着まで総合的な支援を行っている所でございます。その結果、だいたい毎年20名程度の新規就農者が誕生しているところでございます。もう一つ食育について報告させて頂きたいと思います。久留米市では農業都市の特性を活かしました食育を推進している所ございまして、久留米市食育推進プランの中でも市民みんなが食へ感謝し、健全な食生活を実践するまちを目標に掲げて、様々な施策を展開しているところでございます。特に、市民への食への理解、関心を高めるための啓発事業と致しまして、秋の農業祭と同時に「食育フェスタ」を開催しているところでございます。この「食育フェスタ」に毎年フードデザイン学科の皆さまに出展、参加してイベントを盛り上げて頂いている所でございます。誠にありがとうございます。11月の第2土日が開催日になっておるんですけれども、これが残念ながら信愛祭と同じ開催になっておりまして、非常に忙しい中参加いただいているところでございます。ちなみにですね、昨年私、次長と農業祭を抜け出しまして、信愛祭の方に初めて参入させて頂いた所でございます。そこでですね、フードデザイン学科の信愛レストランで、九州の郷土料理を詰め込んだ松花堂弁当をごちそうになりまして、どうもごちそうさまでした。来年はですね、先程久留米の農産物をご紹介させて頂きましたので、久留米の農産物を活用したお弁当をご検討頂ければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。また、最後に「アイデアレシピコンテスト」、「魚屋さんの料理教室」等、毎年ご協力頂いております、誠にありがとうございます。今後引き続いて、継続して事業を行って参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。今後も久留米信愛女学院短期大学様におかれましては、食育の推進事業をはじめとしました、農業振興施策づくりにご支援ご協力を賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

学長 関 聡

ありがとうございました。続きまして、松野 誠彦 商工観光労働部長様お願い致します。

商工観光労働部長 松野 誠彦

皆さまこんにちは、商工観光労働部長の松野と申します。日ごろより商工観光労働部の事業にご協力頂きまして、誠にありがとうございます。私からは、現在信愛女学院様にもご協力頂いている、商工観光労働部としての中核的な事業二つご紹介させて頂き、また、今後のご協力についてお願いしたいと思います。まずひとつ目ですが、先程市長からもお話がございました地方創生の取り組みでございます。人口減少社会に対応し、人口維持し活力を持続させていく取り組みを進めております。私共の部では二つポイントを考えておりまして、一つは安定した雇用の創出、もう一つは人材の確保、いわゆる地元就職の促進を進めていきたいというところで考えています。雇用の創出については、既存企業の活性化であるとか、企業誘致であるとかそういう支援であるとか、そういった取り組みを進めておりまして、また、人材の確保の方では産学官金労で構成し

ます「久留米市雇用就労促進協議会」こちら信愛女学院様の方からは、北里就職課長様にもご参画頂いておりますが、ここで議論し、新しい取り組みなど進めていこうということをやっております。実を申しますと、久留米市にある5つの高等教育機関、信愛女学院様も含みますが、こちらの卒業生の久留米市内への就職率なんです、平成26年度の卒業生は12.1%、平成27年度は12.9%ということでございます。先程ご報告頂きました、信愛女学院様の方は市内就職率が41%ということで、非常にありがたい限りでございます。そうした協議会の中で、議論し取り組みを進めているんですが、先程ご紹介頂きました「くるめで働こう！」ですね、これも協議会で議論し、ご協力頂きながら久留米の学生さん達を中心に、久留米の企業を紹介する冊子として、現在9号を出しているところです。そして、その議論をふまえて今年度から新しく始めたこととして、インターンシップ、久留米の企業にためしで働いて理解してもらおうという取り組みをはじめまして、また、もう一つは若年者の早期離職対策として、先程ご紹介がありました「ホームカミングデー」の話も参考とさせて頂きながら、市内企業での同期を作っていこうという取り組みを新たにすすめ始めたところでございます。という取り組みを進めているんですが、今もう潮目が変わってしまって、人手不足が非常に顕著になってきていますので、今後は学校を通して中で学生さんのニーズをきちんと地元企業に伝え、地元企業の待遇であるとか、労働環境の改善とか伝えて、繋げていって、学生さんにとって魅力ある職場作りを進めて頂く取り組みを進めると共に、学生さんを育て、また送り出す信愛女学院さんをはじめ高等教育機関のご理解をさらに頂きながら、地方創生の取り組みを進めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。それが一点目でございます。二点目がまちなかの活性化の取り組みでございます。特に商店街の活性化施策でありますとか、久留米シティプラザ、六角堂広場の活用なんかを進めています。ここでポイントとなりますのは、若者であるとか学生さん達との連携が重要なポイントかなと考えておりまして、先程もご報告頂きました「まちなか万博！」で信愛女学院様からは「ココ、カラダ。」と「まちなかアロマ森林浴」二つご参画いただきました。ありがとうございます。今後でございますが、冬の時期がちょっと賑わい作りという意味ではちょっと弱い、手薄な部分がありますので、今年の冬は広場、商店街を中心にイルミネーションの時期に合わせてクリスマスマーケットなどの取り組みを進めたいなというところで考えております。先程、ハイマートからお話があったということでございますが、そういった部分で幼児教育学科様からのダンスのやつであるとか、フードデザイン学科様の方からは、例えばクリスマスマーケットに出店頂くとか、そういった全面的なご協力をお願いできればというところでございますので、どうか一つよろしくお願い致します。私からはこれでお願いを終わらせて頂きます。ありがとうございます。

学長 関 聡

ありがとうございます。続きまして、志賀 浩二 都市建設部長様お願い致します。

都市建設部長 志賀 浩二

皆さんこんにちは、都市建設部長の志賀と申します。どうぞよろしくお願い致します。都市建設部は道路、河川、公園、住宅などの土地基盤整備と管理です。それと併せまして都市計画や公共交通などのまちづくりに関する分野を担う部署でありまして、市民の皆さま方の連携の元で様々な取り組みを行っているところでございます。市民との連携の取り組みをいくつか紹介させ

て頂きますと、道路河川分野では、「くるめ花街道サポーター」や「筑後川ノーポイ運動」等、市民ボランティアの方々の参加によりまして、花の管理とか、清掃活動などを行っていただいているところでございます。先程紹介になりましたノーポイ運動には、久留米信愛女学院からも毎年多くの学生や教職員の方々に参加頂いております。本当にありがとうございます。近年では、一歩進みまして、これまでは愛護なんですけれども、地域活性化を図るという観点からですね、道路とか河川とかそういう公共物を活用しましょうという動きがでております。地域と行政が共同で地域資源を活用して、観光客を迎えましょうという「日本風景街道」という制度ですね、また、河川では、河川空間を使ってオープンカフェやイベントなど、民間団体が主体になって活動する、「ミズベリングプロジェクト」等が始まってございます。久留米市におきましても道路ではみどりの里耳納風景街道が登録されまして、道の駅とかと連携致しまして、散策ルート作りや各種イベントに取り組んでいるところでございます。また、河川では今年の5月に民間団体が主体となって、市・国と連携してオープンカフェとか、音楽演奏会ですね、その他のおでかけマルシェの出店等、様々なイベントをですね「カワベリング」と銘打って実施されておりますので、今後も続けることになると思いますので、参加のご検討をお願いしたいと思っております。また、交通分野に関しましては、久留米市では自転車が似合うまちづくりを進めておりまして、久留米でコミュニティサイクルくるくるを運用しておりますけれども、ちょうど今日2周年目を迎えております。利用がですね順調に伸びてございまして、更なる利用促進を目指しまして、本日12時から利用料金の見直しを行ってございます。明日西鉄久留米1階のイベント広場におきまして、16時30分から料金改正の街頭ピーアールをするんですけれども、自転車の世界選手権10連覇の中野浩一さんも参加しますので、是非ご利用頂ければと思っております。また、自転車の利用環境を図る観点から、放置自転車の回収とか、交通ルールやマナーの意識啓発など様々な取り組みを実施していくんですけれども、どうしても学校の方々とか、市民の皆さまの協力が重要になると思っておりますので、今後ともご協力の方よろしくをお願いしたと思います。また、三つ目ですけれども、住宅分野では新たな取り組みとしまして、昨年も紹介したと思いますが、郊外住宅団地の住宅環境の向上や、学生による地域活動への貢献などを主な目的としまして、久留米市営住宅リノベーション学生コンペを実施しております。この取り組みは高等教育コンソーシアム久留米に業務委託致しまして、市営住宅へのルームシェアをテーマにて、大学、短大、高専に在籍する学生から、アイデアを募集するもので、昨年度は8作品の提案がございました。応募者の中ではですね、専門とする学生だけではなくて、文系の方々の学生もおりました。本年度も実施する予定ですので、是非専門じゃない学生の方々の、自由な発想での参加頂ければと考えてございますので、よろしく願いします。今後もこの様な取り組みを継続して進める予定ですので、今後ともご協力の方よろしくお願い致します。

学長 関 聡

ありがとうございました。続きまして、窪田 俊哉 教育部長様お願い致します。

教育部長 窪田 俊哉

教育部長の窪田でございます。よろしくお願い致します。教育部は市立の小学校46校、中学校17校、特別支援学校1校と、高等学校2校と全部で66校を所管しているということでございます。日ごろから、色んな点で連携、ご協力を頂いております。ありがとうございます。その

中でまず、食を通じた連携についてご報告させていただきます。久留米市では中学校の学校給食につきましては、中学校17校の内14校に対して、野中町にあります中央学校給食共同調理場から提供しておりまして、その中央学校給食共同調理場で平成23年度から、校外実習生の受入を実施しているところでございます。今年度につきましては先週月曜日6月19日から、金曜日23日までの5日間、フードデザイン学科の2年生4名、実習に参加されました。献立の作成ですとか、食に関する指導案の作成等の実務研修においてですね、当該センターに勤務する栄養士から説明を受けて、大変熱心に耳を傾けておられたと聞いております。また、毎年学校給食の充実と多様化、調理技術の検査と意欲の向上を目的に、学校給食料理コンクールを開催しております。昨年に引き続いて今年も8月17日に信愛女学院短期大学の施設を会場として利用させて頂いて、開催する予定としております。今後とも様々な場面で食育推進のためにご協力をお願いすることと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。次に、南筑高等学校との連携授業についてご報告させていただきます。先程、高大連携推進事業でご報告を頂きましたとおり、南筑高校では「ライフデザインカレッジ講座」をカリキュラムの中で取り入れておりまして、各学科のご協力を頂いて、南筑高校2年生の生徒が短大生と一緒に授業を体験したり、信愛幼稚園、信愛つどいの広場を見学したりするなど、大学のキャンパスでしか味わうことの出来ない貴重な体験をさせて頂いている講座を賜っております。平成22年度から実施しているものでして、この講座ならではのことを体験できるものとして、生徒にも大変好評で昨年度7名、今年度は11名の受講となっております。キャリア教育の意味からも、また高大連携による大変有意義な取り組みであるということも考えておりますことから、引き続きご支援ご協力の程お願いいたします。なお、信愛女学院短期大学への進学状況と致しましては、今年度はですね、南筑高校から6名の生徒が進学しているところでございます。私の方から以上でございます。ありがとうございました。

学長 関 聡

ありがとうございました。それでは最後に橋本 政孝 副市長様から、まとめのことばを頂きたいと思います。

久留米市副市長 橋本 政孝

副市長の橋本です。いつもこの会では最後にまとめということで引き受けておりますけれども、いつもまとまらない話ばかりをしております。今日は市として各部長が、非常に熱心に長々と説明致しました。手短かにまとめ、まとめじゃないですけども発言させて頂きたいと思います。都市づくり高等教育機関に期待するものというのは4つあるんだろうという風に自分なりに思っているわけですが、一つは教育とか学術研究としてその都市の知的水準を高めていくこと、二つ目には地域をリードして、リードするあるいは支えていくような人材を排出すること。三つ目には、学生を中心としたサブカルチャーによる賑わいを作り出すこと。四つ目に、地域の抱える現実的な、あるいは将来的な課題に対しての対応策を学術側から取り組んで頂くことという風に思っております。今日、信愛女学院短大の色々な取り組みを聞かせて頂きましたけれども、まさに久留米市が期待する役割をしっかりと担って頂いているということを再認識をしたところでございます。久留米市は日本一住みやすいまちを目指しております。こういって、高齢者が安全に安心して住みやすいまち、あるいは子育てしやすいまちという風になりがちですけども、もちろんそれはそれで非常に重要なことですが、若者にとっても日本一住みやすいまちでなければならない

と思っています。若者にとって住みたくなるまちというのは、やはり自己実現が出来るまちだろうという風に思っております。やりたい仕事が見つかる、なければ自分でつくる、そうしたことが出来やすいまち。おしゃれな服は福岡に行ってどうぞお買い下さい。その服を着て歩くのが久留米のまちということで思っておりまして、若者文化であふれるまち、あるいはサブカルチャーのまち久留米であることが、これから大変重要であろうという風に思っております。今後とも信愛女学院短大におかれましては、是非若者が住みやすいまちづくりにアドバイス、あるいは連携を是非頂きたいという風に思います。今日は大変有意義な協議会になったと思っております、今後の久留米信愛女学院短大様のますますのご発展をお祈りしながら、まとまりませんが、発言とさせていただきます。ありがとうございました。

学長 関 聡

橋本副市長様ありがとうございました。最後に本学院理事長、S r. 横田 君代がご挨拶とお礼を申し上げます。

5. 理事長挨拶

理事長 横田 君代

理事長の横田でございます。一言お礼を申し上げます。本日は、本当にお忙しい中、檜原市長様をはじめ重責を担っておられる皆様に長時間この会議に参加していただきまして、また、短期大学の地域参画の活動に貴重なご助言をいただきまして、本当にありがとうございました。久留米信愛がこの地に1961年に高等学校がまず創立されたと、久留米市長様の依頼に基づきまして参りまして、2020年が60周年ということですが、今現在短期大学が8年後に開設されましたので、今ちょうど創立50周年を歩んでいるところでございます。これは本当に、久留米市そして地域の皆さまに支えられながら歩んできた結果であると思っておりますけれども、少子化の流れには逆らえませんが、非常に学生募集に苦戦しているところでございます。ビジネスキャリア学科が募集停止になりまして、今2学科体制で進んでおります。なんとか地域と結びついて学校も活性化していくためにということで、来年度から短期大学と中学校を男女共学の方にもっていきこうと今準備を進めているところでございますけれども、短期大学に男子学生がどれくらい来てくれるものかということで、それは未知数の段階でございますが、今準備を進めているところでございます。でも、建学の精神は変わりませんので、今まで以上に短期大学としてカトリック精神に基づく人間教を行いまして、地域に貢献できる短期大学として共に歩んで参りたいと思っております。ビジネスキャリア学科は廃止になりましたけれども、今まで以上に色々な要望がございましたら、どんどんお申し出て頂ければできる限りのご協力をして、また、色々な情報を発信頂ければ、久留米市と共に歩んでいきたいと思っております。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。今日のお礼の言葉とさせていただきます。本当に今日はありがとうございました。

学長 関 聡

皆さま本日は、長時間に渡り熱心なご討議誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。それでは最後に事務連絡を行います。

6. 事務連絡

短期大学事務長 高柳 恭子

長い間ご協力頂きまして、誠にありがとうございます。事務連絡をさせていただきます。本日は、先程山下フード学科長の方より紹介致しました、福岡県と久留米市との委託研究であります、ぶどうの樹様との産官学連携により商品化されました「ココナッツドーナツ」の方をお土産に入れさせて頂いておりますので、どうぞご賞味頂きたいと思います。来年度もこの時期に久留米信愛女学院短期大学地域参画推進連絡協議会を開催致す予定でございますので、お忙しい中とは思いますが、是非また来年度もご参加頂きますように、どうぞよろしくお願い致します。お帰りの際はお気を付けてお帰り下さい。本日はありがとうございました。

7. 閉会

学長 関 聡

これを持ちまして平成29年度久留米信愛女学院短期大学地域参画推進連絡協議会を閉会いたします。皆様ありがとうございました。